

人 チーム 制度



仕事の活力はプライベートの充実があればこそ

株式会社ウエスコ 本多賢二郎さん

今回ご紹介するのは4年前から(株)ウエスコの設計課で働かれている本多賢二郎さん。2016年の11月に途中入社されて、これまで道路や駅前広場、大規模開発から体験農園の設計など多岐にわたるジャンルの案件を担当されています。

プロフィール

氏名 : 本多賢二郎 (36)
 所属 : 関西支社 技術部 設計課
 勤続年数 : 4年
 居住地 : 大阪市内
 主な業務 : 道路設計、交差点改良
 景観設計、駅前広場 など

これまでの経歴を簡単に教えてください。

子供の頃から「バリアのない”まち”を創りたい!」との思いから、建設工学が学べる地元の工業高校へ進学しました。その後の大学時代は、都市の在り方や公共空間が担う役割について勉強し、地元の建設コンサルタントへ入社しました。約10年間にわたって道路、河川、開発、公園等の設計キャリアを積み、自身のキャリアアップと社会貢献の幅を広げるため、2016年の11月から(株)ウエスコに勤務しています。

休みの日はどのように過ごされていますか?

休日の多くは地元で硬式テニスをしています。私は高校時代～大学時代に硬式テニスをしており、現在も週に1回は地元である京都の社会人サークルで活動しています。日頃の運動不足を解消する目的もありますが、運動をして汗を流すと気分がリフレッシュするので、ストレスの解消にも役立っています。

【京都最古の禅寺 建仁寺の枯山水】



不定期ですが、友人に影響されて最近始めたことが寺社仏閣巡り(日本庭園巡り)と御朱印集めです。日本庭園を眺めていると、禅の心を感じることができ、自分自身と向き合える時間が作れます。たまに訪れて頭の中と心を”リセット”し、仕事への活力に変えています。

【サークル20th Partyの1コマ】



「WORK」と「LIFE」のバランスはどのように保たれていますか?

仕事とプライベートのバランスが崩れる原因は仕事量と作業能力が大きく関係します。バランスを保つためには仕事の効率をあげ、残業時間をどれだけ減らせるかがポイントであると思っています。仕事量は決まっていたとしても、いつまでに「やるべき作業か」を明確にし、1つずつ処理していくことで、作業効率は大きく改善されます。私が実践しているのは、付箋に1週間の作業内容を1つずつ書き出し、パソコン画面へ貼っていきます。付箋のタスクが完了したらはずして行く。この習慣によって1週間のやるべき作業が早々に明確となり、次に何をやらなければいけないかを考える時間が減りました。そのおかげで削減できた時間分は早く帰れるようになり、LIFEの時間を確保することができています。

ノー残業dayの取り組み、職場環境の改善

当社では毎週水曜日がノー残業dayに指定されています。ただ、それぞれの仕事の状況によって水曜定時退社が出来なかった場合は、各々が1週間のうちに1日はノー残業dayを作るという取り組みを行っています。また、社内各部署から代表者を選定し、月に1回程度の頻度で職場環境、労働環境の問題点と改善策を話し合う委員会を支社内に設置しています。支社管内の支店・事務所等をWEBで接続し、フランクに話し合える環境の中で社員自らが職場環境の問題点を共有し、対策方針を決めて改善していくことが目的です(社員全員からも意見を取り入れるため匿名可能な目安箱も設置しています)。また、継続中の取り組みですが、これまでに社内の方々がりフレッシュするためのイベントを企画したり、落ち着くオフィスを目指して少しずつ植物を配置したり、オフィスコンビニを設置したりとこつこつ取り組んでいます。

最後に、建コンで働く皆さんに伝えたいことはありますか?

まず、建設コンサルタントという職種は多忙な状況が続いている仕事であると思います。厚生労働省が示している”働き方改革”では、「少子高齢化社会における生産年齢人口の減少」と「育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化」などが懸念されており、建コン業界においても同じ問題に直面しています。各企業が”改革”を先導することはもちろんですが、建コンで働く1人1人が意識し、個人で出来ることを積み重ねていくことが改革を推進するにあたって最も重要なことではないかと思えます。私も会社の労働環境や職場環境を意識するようになり、自分にとって、職場で働く仲間にとってどのような環境が望ましいのかを考えるようになりました。まずは残業を減らす、有給休暇や育児休暇を取得しやすい環境を整備し、将来的に若者が働きたいと思う職種となるように協力していきましょう。